

## ICT 活用“稼げる技術”短期習得実践道場～ぶどう短梢栽培～

◎ 7 月 7 日実施第 5 回講座の内容から



果実袋には針金が入っている。袋の中に水が入らないように針金をしっかり巻く。



袋かけが終わったら、笠をかけ、日焼けを防止する。



新梢管理前（左）と新梢管理後（右）の写真

棚下に木洩れ日が入るくらい明るくする。

ナガノパープルやクイーンニーナの場合はとくに棚下を明るく保つ必要がある。

以下ページより第 5 回講座資料

## 実践道場（ぶどう）第5回 袋かけについて

平成 29 年 7 月 7 日 長野農業改良普及センター

### 1 袋かけの目的

袋かけは、生産の安定、果実の商品性を高める上で必須作業であり、以下の目的をもつ。

#### ①病虫害防除

晩腐病をはじめとする雨媒伝染性病害の軽減、およびハチ、ヤガの防止効果が高い。また防虫袋を利用することによりスリップス類の被害が軽減できる。

#### ②外観保持

薬剤散布による果面汚染、果粉の溶脱を防止できる。

#### ③品質向上

気温が冷涼な地域では、袋内温度が高くなることにより、酸含量を 0.1～0.2% 低下させ、食味を良好なものとするができる。

#### ④裂果防止

果面からの吸水を防ぐことにより、裂果を軽減できる。

### 2 袋の種類

袋は、着色、糖度、酸抜けの良否、日焼け発生程度および果房の大きさを考慮して選択する。

純白ポリステロン撥水处理袋が通気性に優れ、病害発生も少なく安定している。

また、防虫剤を処理した袋はスリップス防除効果が高いので、被害の多い地域、園地では用いるとよい（図1）。

「シャインマスカット」では、緑色に着色した果実袋を用いることで、果皮色の極端な黄化を抑制することができる。ほ場外周部の日当たりのよいところや、内部でも若木で棚下が明るいところでは緑色袋を用いたほうが良い。

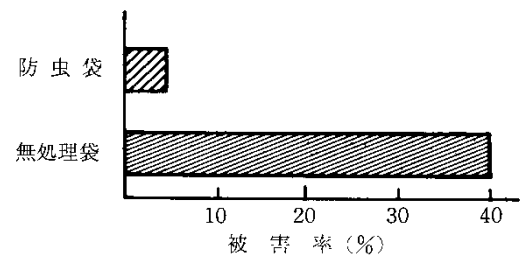


図1 スリップス防虫袋と無処理袋の被害果房率  
(長野中信農試)

### 3 袋かけの時期

果面保護、病虫害防除の点から考えると早期被袋が望ましい。摘粒作業が終り次第できるだけ早く行う。早期摘粒、早期被袋は品質向上に結びつく。

被袋時期に関して特に問題となるのは日焼けである。被袋後、外気温が急激に高くなると袋内の果実温も上昇し、日焼けが多発する恐れがあるので、日中 30℃以上の高温が続く時期の被袋はさける。したがって摘粒作業を早めに終わらせ梅雨明け前の 7 月上中旬に被袋し、温度に対してのならしをさせておくか、水まわり以後に被袋する。また遮光率の高い笠かけとの併用によっても日焼けを軽減できるので、毎年被害の見られる地域では、笠かけとの併用が望ましい。

### 4 袋かけ実施上の留意点

①袋の口もとはしっかり締め、風に落とされたり害虫が侵入したりすることのないようにする。

②袋はやや大きめの方が除袋時の果粉の落ちが少ない。

- ③袋の口もとを水にぬらしておくとは非常にかけやすい。最近防虫袋もあるので口でなめることはさける。
- ④防虫袋を用いる場合も、袋かけ前には防除暦に従って薬剤散布を十分行っておく。
- ⑤防虫袋は1年経過すると効果が落ちる恐れがあるので、必要数量のみ購入する。
- ⑥袋の数を把握しておき結果量の最終調節の目安とする。10 a 当たり所定の枚数を用意しておき、園内を2度がけするつもりで少し残しながらかけて最終的な摘房の仕上げに役立てる。

## 5 笠かけ

笠かけは日焼け防止効果、鳥害防止効果が高い。日焼け発生が懸念される場合は、遮光率の高い笠を用いる。